

あなたへ インタビュー

新メンバーで、市議会だよりを発行することになり、「発信する」を一つの役割としました。広報委員が取材を通して、市民と語り市民の声を反映することに取り組みます。1回目として、浅利、真崎の両委員が今回は、地域の取材にあたりました。

市民インタビュー



真崎 栄治さん (76)
仙北市田沢湖卒田在住

職業 農業
—— 合併しての感想は？

現在のところ、「良かった」とは言えないと感じている。

合併して、どのような仙北市をつくり、旧町村の特色をどのように引きだし、地域づくりを進めていくのか、財政面のマ

イナスのイメージが先行してしまっているが、具体的な部分までの説明が必要だと思う。

市民の交流の場をもっと増やして、一体感が感じられる仙北市を創ってもらいたい。

—— 議会に望むことは？

旧町村の垣根を越えて仙北市の視野での活動を望む。住民の声を反映させるためには、議員定数は減らすべきではないと考える。そして、市民と行政の橋渡しの役割を果たすため、多くの政策(特に農政!)を立案し、老いも若きも住みよい仙北市となるよう、市政運営に反映されることに期待する。



鈴木 定平さん (55)
仙北市西木町上松木内

職業 農業
—— 合併しての感想は？

村当時は一つの庁舎に各課があり、一度に全ての用事を済ませる事がで

きた。合併して分庁舎体制となり役所が遠い存在となった。市政が身近に感じられる体制を考えて欲しいと思う。

—— 議会に望む事は？

3年前に内陸線を守る会を立ち上げ頑張ってきた。北秋田市と比較して仙北市の方は取り組みが見えず心細かったが、議会に特別委員会が設置された事で心強く感じている。我々に出来る事は乗車運動と陳情活動。県に対して絶対に内陸線が存続できるように頑張ってもらいたい。

わが会派

仁政クラブ

仁政とは、市民の立場をよく思いやって行う政治のことである。

会派の会則は設けてはいないが、所属議員や賛同していただく方々の自発的な活動を支援し、その行動パターンを重視している。

幸いにして6人は、旧町村にわたり、活動の柱となる議員と市民の問題

編集後記

議員任期の半分が過ぎた5月、常任委員会の構成替えが行われ、それに伴って議会広報編集特別委員も前掲(14頁)のようなメンバーに変わった。

新メンバーは委員9人中、8人が新任、1人が

再任という陣容になった。

これまでの編集ノウハウを基盤に、少しでも読みやすい議会広報になるよう委員一同努力したい。

「ありのまま、わかりやすく、住民と共に」をモットーにした広報作りを心掛けたいと思っている。

「発信と提案」まちづくりの議会だより

意識を共有するには理想の会派である。

月1回程度、市内各地を訪ねて勉強会を開いている。7月6日はボランテニア団体の案内で、田沢湖の白浜で清掃活動をしたが、岩手のジェットスキー愛好グループ、振興局の職員、地元関係者等と話し合うことが出来、現場からの問題点を大量に持ち帰ることが出来た。

次回の8月の予定では白岩で麦の栽培で頑

張っているグループを訪ねる計画。更に9月は、9・17豪雨から1年、被災地松木内での復旧活動の実態調査など、行政に生かすための調査活動が中心であるが、市民の皆様のご要望があれば、どこへでも出向きたい。

(代表 安藤武)

